辞書の使い方 (2)

年　組　氏名〔　　〕

国語辞典を上手に使いこなすためには、その辞典の形式に親しみ、いろいろな約束を理解しておくことが必要です。

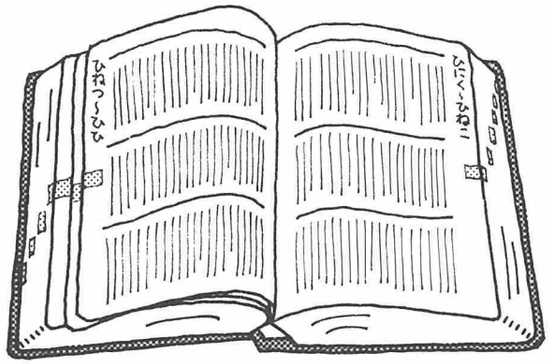
どんな辞典でも、はじめのほうに「この辞典の使い方」あるいは「凡例」などとして、その辞典の使い方や約束ごとが説明されていますので、必ず目をとおしましょう。「こんなことまでわかるのか」とそれまで知らなかった辞典の使い方を発見することまちがいなしです。

一　言葉の探し方

1　基本は五十音順だ！
　～「見出し」（目印）を利用せよ！

ページのいちばん外側（小口）に付けられている「小口見出し」で、調べる言葉の場所の見当をつけよう。

そのあとは、ページの上、もしくは横に示されている「柱見出し」を活用しよう。「柱見出し」には、そのページの初めの言葉と終わりの言葉の、初めの二～三文字を表してある。例えば「ひにく～ひねこ」のページなら「ひねもす」は載ってないってことがわかるんだ。



2　見出し語（項目）の並べ方の原則

(1)　清音・濁音・半濁音の順番で並んでいる。
　はらはら→ばらばら→ぱらぱら
(2)　拗音の「ゃ・ゅ・ょ」や促音の「っ」は、ふつうの「や・ゆ・よ」「つ」のあとに並んでいる。
　きょう（器用）→きょう（今日）
　はつか（二十日）→はっか（発火）
(3)　長音をふくむ言葉は、その上の母音をくり返した形におきかえて探せ！
　オートバイ→おおとばい
　コーヒー→こおひい
　＊のばした音は考えない、という原則の辞典もある。
　オートバイ→おとばい
　コーヒー→こひ

3　見出し語が見つからない　パート1
　～あきらめるのは早い！　言い切りの形で探せ！

「読んだ」という語を調べたくても、このままでは調べられないね。「美しかった」も見出し語になってないからだめだ。このように形の変わる語（活用のある語）は、言い切りの形に直してから探そう。

「読んだ」→「読ん＋だ」→「読む」
「美しかった」→「美しかっ＋た」→「美しい」

4　見出し語が見つからない　パート2
　～あきらめるのは早い！　もとの語を考えよう！

「新しさ」という語を調べてみると、見出し語に見つからない場合がほとんどだ。しかし、これもまたきちんとした探し方を知っていれば見つかるんだ。

「新しさ」のもととなった語はなんだろう。そう、「新しい」という語だ。そこで、もとの形の語「新しい」を引いてみると……。

> **あたらしい【新しい】（形）①今までにはなかった……**
> **――がる（自五）―げ（形動）――さ（名）**

5　見出し語が見つからない　パート3
　～あきらめるのは早い！　「親項目」で探せ！

「息が切れる」はどうすれば調べられるだろう。こういう場合は、「息」という見出し語を調べてみよう。すると「息」という語の解説に続いて、次のように書かれていないかな。

> **いき【息】①〔動物が〕口や鼻から呼吸す**
> **――が合う　両方の調子がよくあう。気**
> **――が掛かる　有力者の影響・支配のも**
> **――が通う　まだ死なないで生きている**
> **――が切れる　①息切れがする。転じて**

見出し語にないからといって、すぐにあきらめてはだめだね。

二　国語辞典のこんな使い方

みなさんが国語辞典を使うときは、どんなときでしょう。その代表的な使われ方を整理してみると、次の三通りになります。

①言葉の意味がわからないとき
②言葉の使われ方を調べたいとき
③言葉を漢字でどう書き表すか確かめたいとき

ところが国語辞典は、こうした使われ方だけでなく、さまざまな場面で活用されるように工夫されているのです。

1　漢字学習に役立つ！

見出し語を漢字で書いた場合、それが「教育漢字（小学校で習う漢字）」か、「常用漢字（中学校までに習う漢字）」か、それ以外なのかを示しています。

2　アクセントがわかる！

辞典によって、表記の仕方は異なりますが、共通語のアクセントを示した辞典が増えています。

> **あめ【雨】アメ**
> **あめ【飴】アメ**

3　「付録」も充実しているぞ！

国語辞典の巻末には、それぞれ工夫された付録がある。国語の知識のみならず、生活百科・地理・歴史にかかわるものなどさまざま。一見の価値あり！